

平成29年度 伊丹市地域包括支援センター 事業報告

市内の各地域包括支援センターは、「地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする」（介護保険法第115条の46）に基づき、高齢者が住み慣れた地域で安心して過ごすことができるよう、地域における包括的および継続的な支援を行うため、下記の内容に取り組みました。

1 地域包括支援センター間の情報共有、連絡調整

地域包括支援センターが相互に連携し、情報共有を図り、共通認識を持って地域包括ケアシステムを推進することを目的に、以下の連携会議を開催しました。

会議名(内容)	主な参加者	開催回数
<p>・<u>地域包括支援センター管理者会議</u></p> <p>地域包括支援センター事業実施計画を検討、策定し、計画に基づく各包括の取組状況を参照しあい、業務の標準化を図るとともに、業務推進に向けた連携促進や現場の課題等を共有し、業務改善に向けた検討を目的に開催。</p>	地域包括支援センター管理者	6回 (隔月1回)
<p>・<u>権利擁護業務報告・レビュー会議</u></p> <p>地域型包括支援センターが関わる虐待ケースの受付件数の報告と、それぞれが対応しているケースの中で、緊急対応等が予測されるケースや全体で共有すべき課題のあるケースについて、振り返りを行い、支援のあり方について、評価・共有することを目的に開催。</p>	権利擁護業務担当者 (社会福祉士)	12回 (月1回)
<p>・<u>ケアマネジャー支援会議</u></p> <p>地域包括支援センター事業実施計画に基づき、一体的なケアマネジャーへの支援の具体的検討と取組み状況の共有、評価、情報交換を目的に開催。</p>	ケアマネジャー支援担当者 (主任介護支援専門員)	9回 (隔月1回) (臨時3回)
<p>・<u>介護予防事業連絡会議</u></p> <p>地域包括支援センター実施計画に基づく、介護予防推進に向けた一体的な取組みの具体的検討と取組み状況の共有、評価、情報交換を目的に開催。</p>	介護予防事業担当者 (保健師・看護師)	8回 (隔月1回) (臨時2回)

2 総合相談・権利擁護

(1) 総合相談支援

総合相談は、基幹型包括支援センター及び地域型包括支援センターが、その他の関係機関と連携しながら必要な情報収集を行い、介護保険サービスをはじめとした制度の利用や関係機関、地域資源につなぐ等、高齢者等への総合的な支援を実施しました。

①総合相談件数

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
実件数	8,598	9,274	10,723
延べ件数	9,948	10,532	14,840

②相談者（平成27、28年度は複数回答、平成29年度は相談者の実件数）

年度	本人・家族等	地域住民	地域包括	介護支援専門員 サービス事業所	関係機関	その他	合計
27年度	4,635	1,474	983	1,212	1,532	112	9,948
28年度	5,055	1,430	973	1,304	1,585	185	10,532
29年度	4,461	1,640	899	1,689	1,826	208	10,723

※関係機関…行政関係者等、高齢者関係機関・施設、障害者関係機関・施設、児童関係機関・施設、医療機関等

③相談内容（平成27年度、28年度は主たる相談内容の実件数、平成29年度は複数回答）

年度	サービス関連	介護生活相談関連	権利擁護関連	その他	合計
27年度	3,035	4,452	980	131	8,598
28年度	3,286	4,585	1,210	193	9,274
29年度	6,576	5,828	1,991	445	14,840

(2) 高齢者虐待への対応

高齢者等に対する虐待の予防及び早期発見に努めるとともに、虐待ケースが発見された場合には、市地域・高年福祉課、基幹型包括支援センター、地域型包括支援センターが連携し、速やかにコアメンバー会議（支援方針決定会議）を開催することにより、必要な対応を検討し、高齢者本人や家族に対する適切な支援、継続的な見守りにつなげるよう取り組みました。

①虐待の新規相談・通報件数

	合計
27年度	67
28年度	92
29年度	103

※H29年度の虐待の相談・通報件数は103件。実態把握の結果、虐待を受けたと判断した事例は56件、虐待を受けたと疑われる事例は47件であった。

②虐待の種別・類型件数（複数回答）

	身体的虐待	介護等放棄	心理的虐待	性的虐待	経済的虐待	合計
27年度	42(50.6%)	6(7.2%)	19(22.9%)	0(0.0%)	16(19.3%)	83
28年度	58(52.7%)	5(4.6%)	31(28.2%)	1(0.9%)	15(13.6%)	110
29年度	61(56.0%)	8(7.3%)	26(23.9%)	0(0%)	14(12.8%)	109

③包括別虐待内訳件数（平成29年度）

	H29年 4月1日 時点の ケース数	29年度 新規通報 受理件数	新規通報の虐待種別・類型（複数回答）					終了 ケース	継続支援 ケース
			身体的 虐待	介護等 放棄	心理的 虐待	性的 虐待	経済的 虐待		
天神川・ 萩野	28	10	6	0	2	0	2	8	30
稲野・ 鴻池	14	9	7	1	1	0	2	2	21
伊丹・ 摂陽	23	12	7	0	3	0	2	6	29
笹原・ 鈴原	27	11	4	0	5	0	2	12	26
花里・ 昆陽里	8	10	5	1	5	0	0	3	15
桜台・ 池尻	6	16	8	2	3	0	3	9	13
神津・ 有岡	17	11	10	1	0	0	1	7	21
緑丘・ 瑞穂	15	13	6	3	3	0	1	7	21
南	16	11	8	0	4	0	1	15	12
計	154	103	61	8	26	0	14	69	188

3 地域包括支援センター活動支援内容

活動支援内容		29年度
訪問状況	訪問件数	3,717
活動支援内容	実態把握、安否確認	3,567
	情報収集、情報共有	7,157
	助言、指導、情報提供	5,737
	ケアマネジャーへの支援	756
	介護予防対象者の把握	112
	介護保険・総合事業サービス等の利用支援	2,294
	保健福祉サービス等（介護保険以外）の利用支援	574
	障害福祉サービス等の利用支援	40
	地域の社会資源活用支援	170
	医療機関の利用支援	306
	関係機関との連携・協働（連絡調整含む）	3,575
	地域住民との連携・協働（連絡調整含む）	537
	その他	203
	合計（訪問件数除く）	25,028

4 介護予防事業

介護予防業務の進捗状況の共有と、情報交換及び地域住民と協働した介護予防の取り組みについて検討するため、介護予防事業連絡会を開催しました。また、介護予防の推進を図ることを目的に啓発活動を行うとともに、地域住民が主体的に介護予防に取り組むことを支援しました。

(1) 一般介護予防事業

・いきいき健康大学

健康・介護予防に関する知識の普及啓発と健康づくりに取り組む動機づけを行うことを目的に実施しました。

実施日	実施場所	参加延人数	内容
8月23日・30日・9月15日	いたみホール	159名	前半：講座（各包括で内容を設定） ①認知症予防 ②ロコモティブシンドローム ③フレイル ④骨粗鬆症予防、⑤心の健康 ⑥薬、⑦食生活、⑧自助、⑨互助 ①～⑨の中で、3つのテーマ
9月6日・13日・27日	スワンホール	80名	
10月13日・20日・27日	きららホール	62名	
10月16日・23日・30日	伸幸苑	74名	
10月21日・28日・11月4日	ラストホール	63名	後半：いきいき百歳体操
11月17日・24日・12月1日	サンシティホール	55名	・ミニ講座として、詐欺予防・交通安全・介護サポーターポイント制度を行う。
11月15日・22日・29日	神津福祉センター	67名	

(2) 介護予防活動の推進

介護予防を推進するために、介護予防活動に取り組む地域組織を支援しました。

① いきいき百歳体操グループ数及び参加者数

	27年度		28年度		29年度	
	グループ数	参加者数	グループ数	参加者数	グループ数	参加者数
天神川	4	67	4	67	5	81
荻野	2	36	2	36	4	59
稲野	1	8	2	28	4	89
鴻池	2	35	5	84	7	115
伊丹	2	30	2	30	5	106
摂陽	5	137	6	154	5	139
笹原	1	10	3	40	7	123
鈴原	4	70	6	101	5	123
花里	2	26	2	26	2	29
昆陽里	3	43	5	65	8	113
桜台	0	0	1	20	2	32
池尻	1	10	1	10	5	165
神津	3	40	2	30	4	60
有岡	2	36	5	74	5	73
緑丘	2	50	3	59	3	55
瑞穂	3	67	3	67	3	61
南	3	35	4	59	6	100
合計	40	700	56	950	80	1,523

②介護予防講座等の開催状況

内訳	基幹	天・荻	稲・鴻	伊・撰	笹・鈴	桜・池	花・昆	神・有	緑・瑞	南	合計
介護予防等 健康関係	1	30	20	21	30	50	25	13	2	2	194
制度関係等 その他	2	2	5	10	10	5	9	5	2	5	55

③もの忘れ検診及びロコモティブシンドローム検診後のフォローアップ

もの忘れ検診・ロコモティブシンドローム検診（以下、ロコモ検診）受診者のうち、医師の判定が「二次検診が必要」に該当した方に対し、電話等で状況把握を行うことで、支援を要する方を早期に把握し医療機関や住民主体の介護予防活動等につなげるための支援を行いました。

・フォロー数

	合計
もの忘れ検診	523
ロコモ検診	2,717

※両検診共に「二次検査が必要」に該当した件数は、年合計 380 件

・フォロー時に案内や支援につなげた件数

	合計
介護保険・福祉サービス等	79
講座の案内	82
地域の集いの場・健康教室等	305

5 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業）

9ヶ所の地域型包括支援センターは、指定介護予防支援事業者として、「要支援1」または「要支援2」の認定を受けた人の生活や心身の状態、取り巻く環境等を把握したうえで、介護予防サービス・支援計画書（介護予防ケアプラン）を作成し、自立支援に向けた介護予防ケアマネジメントを実施しました。

・介護予防ケアプラン作成件数および評価の状況

①プラン作成及び評価実施数

	天・荻	稲・鴻	伊・撰	笹・鈴	桜・池	花・昆	神・有	緑・瑞	南	合計
作成人数	295	235	389	576	253	229	277	275	275	2,804
作成数	478	370	643	994	454	367	494	492	494	4,786
評価数	386	285	580	806	394	337	408	295	455	3,946

②男女比および年齢

年齢構成	天神川・荻野			稲野・鴻池			伊丹・摂陽			笹原・鈴原			桜台・池尻		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
65歳未満	4	3	7	7	4	11	6	6	12	5	4	9	7	6	13
65歳～74歳	28	26	54	12	20	32	33	39	72	19	40	59	16	26	42
75歳～84歳	37	110	147	33	89	122	46	144	190	66	170	236	38	86	124
85歳～94歳	28	58	86	20	47	67	33	76	109	61	189	250	19	54	73
95歳以上	0	1	1	0	3	3	2	4	6	6	16	22	0	1	1
計	97	198	295	72	163	235	120	269	389	157	419	576	80	173	253

年齢構成	花里・昆陽里			神津・有岡			緑丘・瑞穂			南			伊丹市全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
65歳未満	1	2	3	5	1	6	11	3	14	3	2	5	49	31	80
65歳～74歳	16	23	39	14	41	55	20	27	47	14	21	35	172	263	435
75歳～84歳	35	79	114	39	106	145	43	86	129	44	100	144	381	970	1,351
85歳～94歳	12	57	69	16	50	66	14	67	81	26	63	89	229	661	890
95歳以上	0	4	4	0	5	5	2	2	4	0	2	2	10	38	48
計	64	165	229	74	203	277	90	185	275	87	188	275	841	1,963	2,804

③プラン作成時の介護度の状況

開始時の介護度	天神川・荻野			稲野・鴻池			伊丹・摂陽			笹原・鈴原			桜台・池尻		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象者	1	4	5	4	11	15	6	12	18	3	16	19	2	0	2
要支援1	50	78	128	33	62	95	54	127	181	66	185	251	33	93	126
要支援2	46	116	162	35	90	125	60	130	190	88	218	306	45	80	125

開始時の介護度	花里・昆陽里			神津・有岡			緑丘・瑞穂			南			伊丹市全体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象者	1	7	8	2	2	4	0	2	2	2	8	10	21	62	83
要支援1	29	74	103	35	78	113	39	81	120	37	70	107	376	848	1,224
要支援2	34	84	118	37	123	160	51	102	153	48	110	158	444	1,053	1,497
計	2,804														

④評価の状況

	天神川・荻野	稲野・鴻池	伊丹・摂陽	笹原・鈴原	桜台・池尻
A 維持	272	197	418	579	294
B 改善	27	32	59	80	30
C 悪化	74	53	79	124	66
D その他	13	3	24	23	4
ABCD計	386	285	580	806	394

	花里・昆陽里	神津・有岡	緑丘・瑞穂	南	合計
A 維持	244	283	153	328	2,768
B 改善	25	57	52	51	413
C 悪化	54	62	75	59	646
D その他	14	6	15	17	119
ABCD計	337	408	295	455	3,946

※評価の状況は、A維持が2,768件と最も多く、全体の約7割を占めています。B改善は、413件で全体の約10%と昨年度179件と比較して、234件の増加となっています。要因としては総合事業開始に伴う事業対象者への移行も影響していると思われませんが、A維持とB改善をあわせた利用者が約8割となったことから、適切なケアマネジメントに取り組み、状態悪化の防止を図ることができたと考えられます。

6 包括的・継続的ケアマネジメント業務

高齢者の生活支援を継続的に支援するため、地域の多様な関係機関と連携を図りました。

(1) 連携会議等への参加

会議内容	開催回数
伊丹市医師会認知症対応向上委員会への参加	年2回
地域密着型サービス事業所連絡会への参加	年4回
伊丹地区地域連携担当者連絡会の参加	年4回
伊丹市介護保険課・市立伊丹病院・基幹型包括連携会議への参加	年4回

(2) ケアマネジャーへの支援

① 介護支援専門員連携会

市内の居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャーの連携体制の強化と相互の情報共有、また、包括、行政との連携の強化、情報共有の促進を目的に「介護支援専門員連携会」を開催しました。

実施日	対象者	内容
6月14日	市内の居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャー	①伊丹市における介護予防事業について ②生活支援サービス体制整備について ③地域福祉活動リストの発行と活用方法について ④生活圏域ごとでの意見交換
10月31日	市内の居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャー	①生活保護受給者の介護サービスの利用等に係る手続き等について ②定期巡回・随時対応型訪問介護看護の取り組みについて ③民生委員児童委員活動について ④地域ケア会議（多職種連携会議）及び民生委員児童委員地区懇談会の開催とケアマネジャーの参画について

② 包括的・継続的ケアマネジメント研修等

市内のケアマネジャーをはじめとした専門職の支援スキル向上を目的とした研修会を、定期的で開催しました。対人援助スキルや制度理解、高齢者虐待防止等、幅広いテーマについて、多職種で共通して理解を深めました。

実施日	対象者	内容
9月7日	医療従事者・ケアマネジャー・地域包括支援センター・介護サービス提供事業所・市職員 他	高齢者虐待防止法について学ぶ～虐待を見逃さないためにできること～ 水上 然 氏 (神戸学院大学総合リハビリテーション学部准教授)
11月29日	ケアマネジャー・地域包括支援センター・介護サービス提供事業所・市職員 他	養介護施設従事者による高齢者虐待について学ぶ～事例に基づいて虐待防止について考えよう～ 山内 賢治 氏 (社会福祉法人 神戸福生会 高齢者ケアセンターながた施設長)
2月27日	ケアマネジャー・地域包括支援センター・介護サービス提供事業所・市職員 他	共に生き、相互に支え合うことのできる地域を耕すということ～地域資源を活用したもうひとつのアプローチ 奥西 栄介 氏 (福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科教授)

3月16日	地域包括支援センター 主任ケアマネジャー・市 職員 他	地域包括支援センター職員研修 気づきの事例検討会（スーパーバイズ） 前川 嘉彦 氏（社会福祉法人 三翠会 特別養護老人 ホーム 施設長）
3月26日	伊丹市・川西市ケアマネ ジャー・伊丹市・川西市 地域包括支援センタ ー・伊丹市・川西市職員 他	伊丹市・川西市地域包括支援センター共催研修 自立支援のケアマネジメント～アセスメント・ケア プランの振り返り～ 佐藤 信人 氏（認知症介護研究・研修東京センター 副センター長）

③伊丹市ケアマネジメント支援会議の実施（事前学習及び事例検討）

市内のケアマネジャーのアセスメント力の強化と自立支援に資するケアマネジメント強化を図ること、また、地域におけるケアマネジャーの支援（人材育成）、ケアマネジメントにおける地域課題の抽出と必要な資源等の提案（地域づくり）を目的に、市内居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員と地域包括支援センターが協働したケース事例検討（伊丹市ケアマネジメント支援会議）を、事前の学習会も含めて、市内を4エリアに分けて実施しました。

実施日	対象者	内 容
5月11日	地域包括支援センター 主任ケアマネジャー・居 宅介護支援事業所主任 ケアマネジャー・市介護 保険課	伊丹市ケアマネジメント支援会議開催に向けた事前 学習のスケジュールと手順の説明
6月13日 6月16日 6月20日 6月28日		高齢者援助における相談面接の理論と実際 1章 援助職者の基礎を形成する視点 ①価値・倫理 ②情緒的客観性 etc
7月11日 7月18日 7月21日 7月26日		高齢者援助における相談面接の理論と実際 2章 援助関係を形成するもの ①バイスティックの7原則 ②ソーシャルサポート理論 etc
8月8日 8月15日 8月18日 8月23日		高齢者援助における相談面接の理論と実際 3章 アセスメント ①アセスメントの重要性 ②ケアマネジメント・ケースマネジメント etc
9月12日 9月15日 9月19日 9月27日		高齢者援助における相談面接の理論と実際 4章 相談面接業務の全プロセス ①相談援助のプロセス ②援助計画 etc 5章 面接における言語技術 ①面接における言語技術 etc
10月10日 10月17日 10月20日 10月25日		高齢者援助における相談面接の理論と実際 6章 相談面接の実際（DVD学習） ①相談面接の実際 ②インテーク面接のポイント etc 学習まとめ 「主任介護支援専門員業務に活かす「気づきの事例 検討会」で育まれる実践力
11月14日 11月17日 11月21日 11月22日		DVD学習 「気づきの事例検討会 スーパービジョンの要素を 取り入れて実践力を磨く」 ①気づきの事例検討会全体の流れと焦点 ②質問を行う上での注意点等の理解

12月12日 12月15日 12月19日 12月27日	地域包括支援センター 主任ケアマネジャー・居 宅介護支援事業所主任 ケアマネジャー・市介護 保険課	第1回ケアマネジメント支援会議開催 ケアマネジメント支援会議振り返り
1月9日 1月16日 1月19日 1月24日		第2回ケアマネジメント支援会議開催 ケアマネジメント支援会議振り返り
2月13日 2月16日 2月20日 2月28日		第3回ケアマネジメント支援会議開催 ケアマネジメント支援会議振り返り
3月13日 3月16日 3月20日 3月28日		第4回ケアマネジメント支援会議開催 ケアマネジメント支援会議振り返り

※ケアマネジメント支援会議を通じて見えた 主な課題

- ・医療依存度の高い方への地域生活支援
本人が在宅で継続して生活するために、家族レスパイトも含めて、必要な資源の検討、サービスの整備が必要ではないか。
- ・若年性認知症の方への地域生活支援
若年性認知症のケースの現状把握も含めて、本人、家族が可能な限り安心して在宅生活を継続していくために、どのような資源が必要か、分析、検討していく必要があるのではないか。
- ・多職種連携の課題
地域との連携について、民生委員や医療職との連携方法について、まだまだ難しいと感じることが多いことから、必要な時にスムーズに情報共有できる仕組みが必要ではないか。
- ・社会参加を支援するうえでの課題
本人の社会参加や他者との交流による意欲向上、役割を持った居場所づくりのために、サービスだけでなく、地域のサロンやカフェ、いきいき百歳体操等の地域の資源につなげるための仕組み作りが必要ではないか。

(3) 地域包括支援センター主任介護支援専門員による居宅介護支援事業所への巡回訪問

巡回訪問実施期間	平成29年12月～平成30年2月
訪問先	市内の居宅介護支援事業所（市内54事業所）のケアマネジャー
訪問方法	基幹型包括・地域型包括主任ケアマネジャー2名1組5グループで役割分担し実施
訪問内容	地域ケア会議についての説明（ともに理解を深め協働した取り組みに向けて） ・「伊丹市におけるケアマネジャーとともに進める地域ケア会議について」をパワーポイント資料を使用して説明 ・その他、ケアマネジメント業務の課題、包括に対する意見等の聴き取り 等

(4) 地域ケア会議

① 地域ケア（個別）会議の開催

「伊丹市地域ケア会議マニュアル（個別ケア会議編）」を作成し、マニュアルに基づいて、個人の課題解決と支援ネットワーク構築をめざした、地域住民も含めた多職種協働による「個別ケア会議」を、地域包括支援センターが中心となり開催しました。

・個別ケア会議 開催数

	天・荻	稲・鴻	伊・摂	笹・鈴	桜・池	花・昆	神・有	緑・瑞	南	合計
28年度	1	0	1	0	1	2	2	1	1	9
29年度	3	1	2	2	1	0	7	2	0	18

・個別ケア会議への主な参加者

本人、家族・親族、社会福祉協議会職員、認知症地域支援推進員、地域包括支援センター、福祉権利擁護センター職員、生活支援コーディネーター、地域住民組織（地区社協等・自治会・老人クラブ等）関係者、近隣住民等、介護支援専門員、民生委員児童委員、介護サービス事業所職員、NPO、市民活動団体、ボランティア団体関係者、介護保険施設職員、企業、商店、金融機関等の民間事業者、市生活支援課職員、市介護保険課職員、警察、病院関係者（MSW、看護師等）、弁護士・司法書士

②地域ケア推進会議（多職種連携会議）の開催

昨年度より実施している、個別ケア会議から課題解決の積み重ねを通じて見えてくる地域課題を共有し、医師、歯科医師、薬剤師などの医療専門職や地域包括支援センター、ケアマネジャー、介護事業所などの介護専門職、そして地域住民がそれぞれの立場で意見を出し合いながら、「できる限り住み慣れた地域で安心して生活し続けられる地域づくり」について話し合う場として、今年度より、地域包括支援センター圏域ごとに「多職種連携会議」を開催しました。

・包括圏域別 多職種連携会議 開催状況

天・荻	稲・鴻	伊・摂	笹・鈴	桜・池	花・昆	神・有	緑・瑞	南	合計
2	2	2	2	2	2	2	2	2	18

・多職種連携会議への参加者

地域包括支援センター、民生委員児童委員、生活支援コーディネーター、介護サービス事業所職員、医師、歯科医師、薬剤師、リハビリ専門職（PT・OT・ST）、介護保険施設職員、介護支援専門員、市介護保険課職員

・多職種連携会議 各地域包括支援センターの実施状況と経過

今年度は、参加する多職種の顔と顔の見える関係づくりと、それぞれの立場、役割の理解、そして、地域の現状と課題の共有を主目的として、年に2回開催しました。

(5)地域とのつながりづくり「民生委員児童委員地区懇談会」の開催

民生委員児童委員と、地域包括支援センター、ケアマネジャー、生活支援コーディネーターが一堂に会し、それぞれの活動、役割について理解を深めるとともに、日常生活圏域（小学校区）における顔と顔の見える支援ネットワークの充実を目的に開催しました。

①懇談会内容

- ・民生委員児童委員活動（高齢者実態調査）を通して把握した「気になった、心配なケース、対応に困った（困っている）ケース」について（地域の中で気になるケースについて話し合い、地域の課題を共有）
- ・民生委員児童委員、介護支援専門員 ここが知りたい!! それぞれの活動と役割について（それぞれのそれぞれの活動と役割について理解を深める）
- ・意見交換を17小学校区で実施し、計414人が参加しました。

7 認知症ケアの推進

認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続するために、認知症の容態に応じ、全ての期間を通じて必要な医療・介護及び生活支援を行うサービス機関が有機的に連携したネットワークを形成し、認知症の人への効果的な支援体制を構築するとともに、認知症ケアの向上を図るための取組みを推進することを目的に、医療や介護の関係機関等の連携支援や認知症の人やその家族を支援する体制づくり等に取り組みました。

(1) 「認知症ケア多職種研究会」の開催

医療と介護の連携強化や地域における支援体制の構築を図ることを目的に「認知症ケア多職種研究会」を開催しました。

実施日	参加者	主な内容
8月1日	医師 歯科医師 薬剤師	・各参加者の意識の共有を図る ・多職種の情報共有の在り方について話し合う
11月1日	介護支援専門員 地域密着型サービス事業所 民生委員児童委員 伊丹市認知症等介護者家族会	・「多職種間の連携について難しく感じていること」「多職種の中で工夫している点」について話し合う
1月24日	伊丹市介護保険課 コミュニティワーカー 地域包括支援センター	・発足からこれまでの振り返りと今後の取組みについて ・おたすけガイドの修正箇所について意見交換

(2) 「認知症ケア多職種協働研修会」の開催

多職種間での情報共有や互いの役割・機能の理解を深める機会として「認知症ケア多職種協働研修会」を開催しました。

実施日	対象者	主な内容
1月31日	医師・歯科医師・薬剤師・医療関係者・居宅介護支援事業所職員・介護サービス提供事業所職員・行政職員・地域包括支援センター職員等	・認知症疾患医療センターの役割と多職種連携について (講師：国立病院機構 兵庫中央病院 副院長 舟川 格氏)

(3) 認知症フォーラムの開催

認知症ケアにおける取組みを紹介し、市民を含めて、今後の認知症ケアについて考える場とすることを目的に「認知症フォーラム」を開催しました。

実施日	対象者	内容
12月13日	伊丹市市民および市内在職の医療・介護専門職者等の認知症ケアに携わる者	認知症の方の居場所づくりを考える～認知症カフェってどんな所？～ (講師：NPO 法人オレンジコモンズ理事 オレンジカフェ上京実行委員会代表 高木はるみ氏)

(4) 「認知症サポーター養成講座」の開催

民間企業、一般市民等から依頼を受け、認知症の人と家族への応援者を養成する「認知症サポーター養成講座」を、地域包括支援センター、キャラバンメントと連携し開催しました。また、キャラバンメイトの資格を持っていても、なかなか活動できない・講座の進め方が分からない人などを対象に「キャラバンメイトフォローアップ研修」を開催しました。

8 高齢者実態調査の実施

ひとり暮らし高齢者及び要援護高齢者の実態を把握するため、伊丹市民生委員児童委員連合会の協力を得て高齢者実態調査を実施しました。また、民生委員児童委員との連携により、必要な高齢者等に対して各地域包括支援センターがフォローアップ訪問を実施しました。

調査期間：6月1日～6月30日（平成29年度）

調査方法：訪問による聴き取り調査

調査結果

平成27年度	ひとり暮らし高齢者数 要援護高齢者数	6,535人（男：1,753人 女：4,782人） 938人（男：307人 女：631人）
平成28年度	ひとり暮らし高齢者数 要援護高齢者数	7,027人（男：1,922人 女：5,105人） 965人（男：307人 女：658人）
平成29年度	ひとり暮らし高齢者数 要援護高齢者数	7,300人（男：2,106人 女：5,194人） 1,296人（男：372人 女：924人）

・地域包括支援センターフォローアップ訪問件数

天・荻	稲・鴻	伊・摂	笹・鈴	桜・池	花・昆	神・有	緑・瑞	南	合計
109	48	140	104	101	74	105	53	94	828